

日本平和大会参加報告

2009年12月16日

岡山県労会議・伊原潔

12月10日～13日、の本平和大会が神奈川県・横浜市を中止に開かれ、「日米軍事同盟打破、基地撤去」を求めて、1000人が集会や分科会に参加しました。この大会には岡山県実行委員会から県平和委員会の大西会長をはじめ17名が参加しました。開会式では基調報告の後、4カ国の海外代表が挨拶を行い、沖縄、岩国、神奈川の闘争団が訴えを行いました。開会のあいさつに立った大黒全労連議長は「鳩山新政権が日米軍事同盟の呪縛から解かれない限り、日本の平和はない。諸悪の根源である日米安保条約をなくす闘いに全力をあげよう」と呼び掛けました。沖縄・辺野古の闘いや神奈川・横須賀の報告では米軍事基地のためにどれだけの市民が犠牲になっているのかが克明に報告され、日本国民の平和な生活を脅かしているのが米軍基地であると訴えました。横須賀を母港化している空母ジョージワシントンには1トンもの核燃料廃棄物を秘密裏に運び出しており、原子力エンジンが爆発事故を起こせば横須賀市民が一度に被爆・被災する大災害となるなど、危険な軍事基地・原子力空母の実態を告発し、会場は安保条約破棄、平和大会成功へと盛り上がりました。

2日目は分科会となり、岡山の参加者の半数は動く分科会に参加して横須賀や厚木基地などの米軍基地を見学しました。説明を聞いて参加者、日本の国土を自由勝手に使い、市民の人権を踏みにじっている米軍の実態を知り、日米同盟即時破棄の思いを強くしました。「ただ、規制が強まっており、遠目にしか見学できず残念」という声も聞かれました。

今大会の主要なテーマでもある「安保50年、いまこそ日米安保条約廃棄を多数派に」のシンポジウムでは参加者から「安保破棄の活動家が高齢化している。どう運動すれば活動家を育て、多くの市民の参加を得ることができるのか？安保廃棄を多数派にするためにはどうすればいいのか？」とする質問があり、シンポジストの小沢隆一（慈恵医大教授）は学生にアンケートを取って見ると、「8割の学生が自衛隊の海外派兵は役に立たないと言っている」また、ジャーナリストの薄井雅子さんはアメリカでの生活体験から「アメリカでは兵士の戦死者数というコラムが新聞の一覧にある。しかし、アメリカでは海外での米兵犯罪は明らかにされてない。しかし、日本人は人殺しの兵を海外に送っていない世界平和に貢献している」と励まし、真実を知らせることの大切さを語りました。また、他のシンポジストも日米同盟の実態を正確に知らせる運動が必要と述べました。